

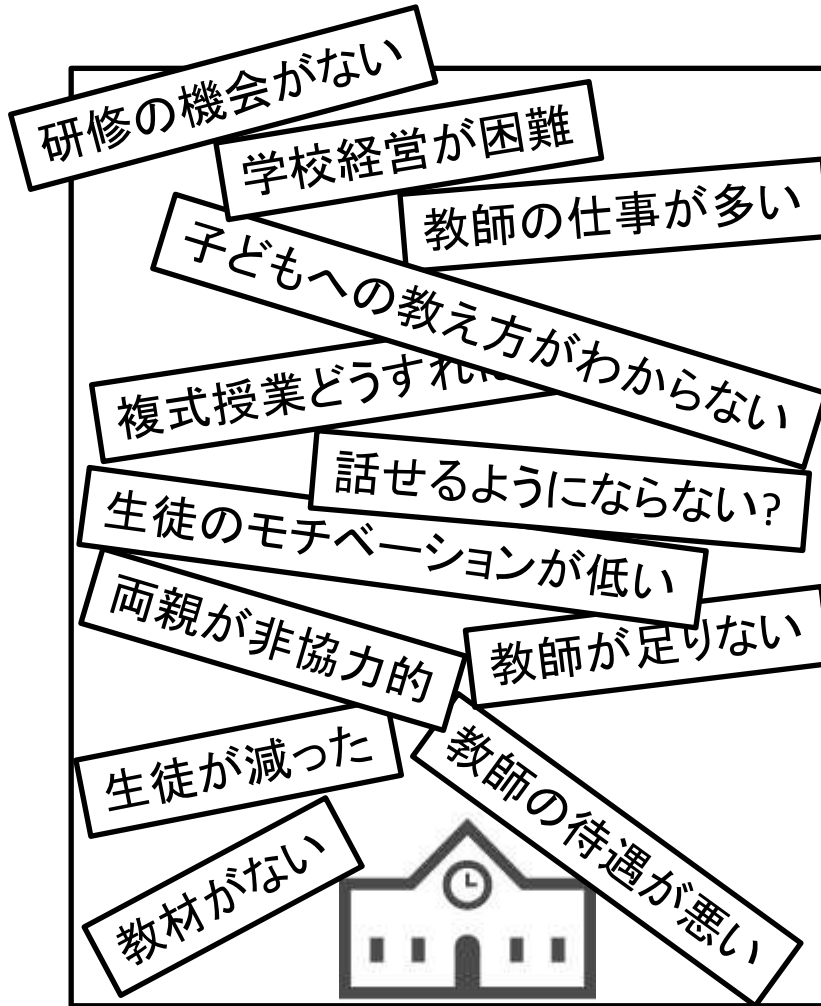
南米日本語教育シンポジウム2017  
南米における日本語教育の現在と未来  
—日系社会のポテンシャル—



予告編

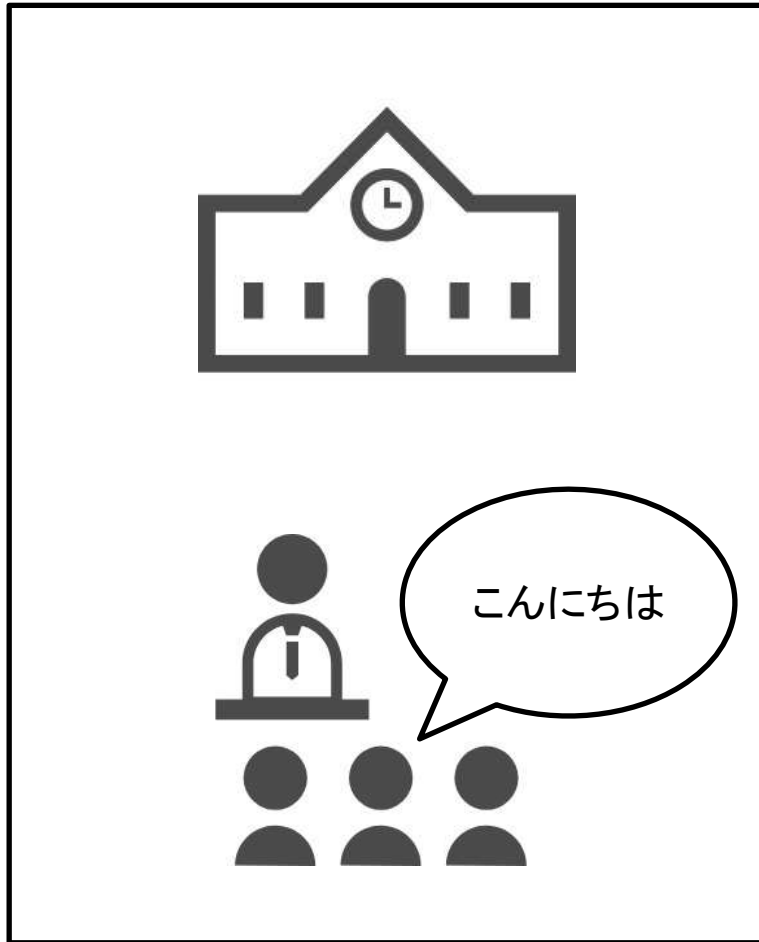


# 日本語教育の問題は 日本語教育だけで解決できるのか？



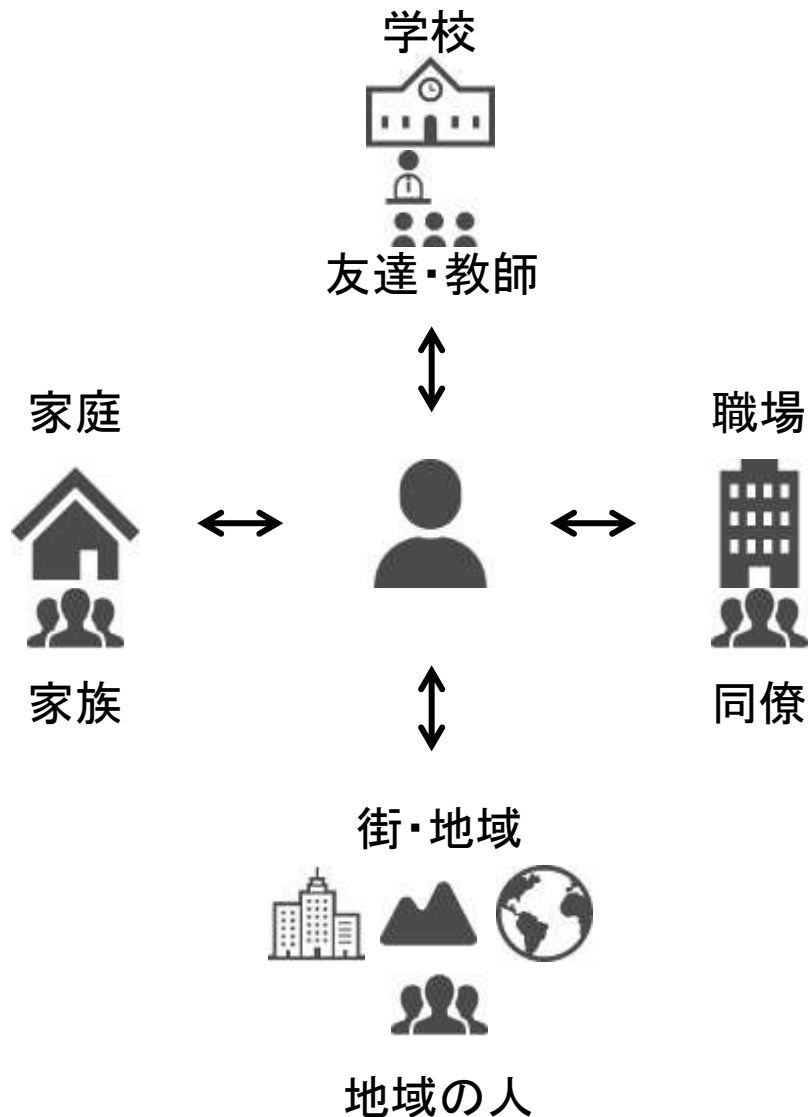
- 日本語学校をめぐる問題は山積みである
- 何度も話し合ったが、解決は難しい
- 一度、**これらの問題はおいておいて**、もっと広い観点から日本語教育について考えてはどうだろうか。
- そうすれば、何かヒントが得られるかもしれない

# そもそも、日本語教育は日本語を教えるだけ？



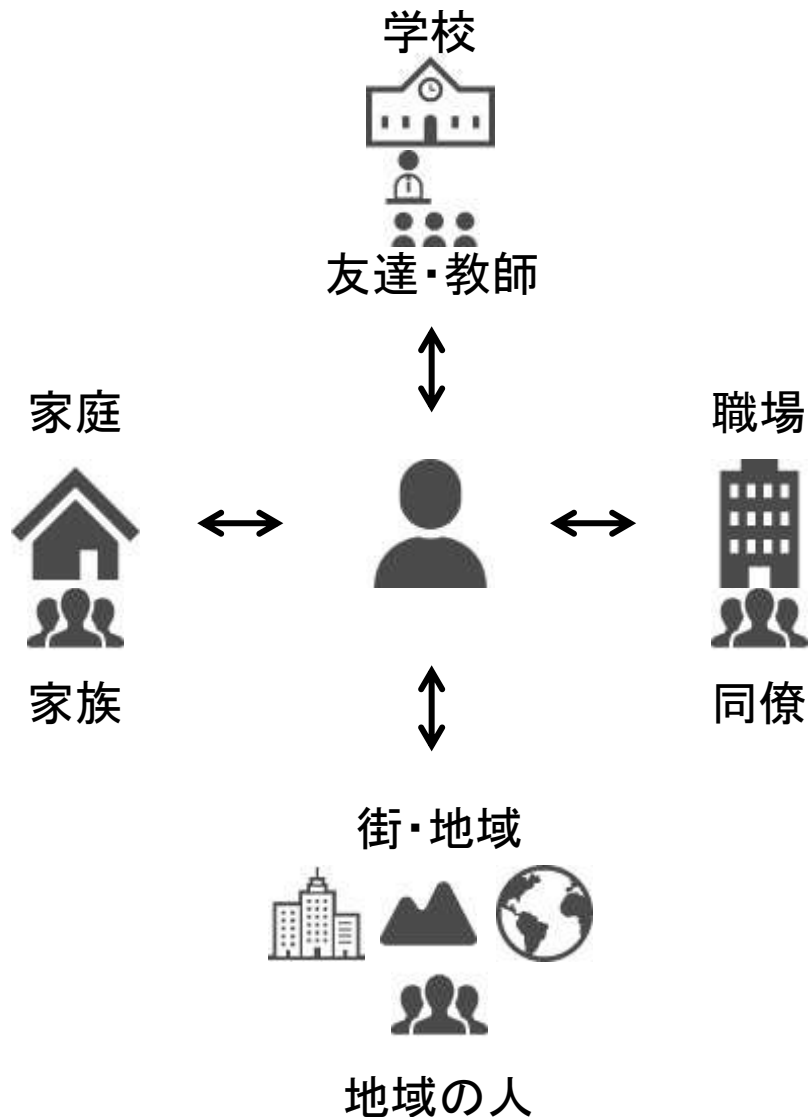
- 日本語教育が教えるのは日本語だけ？
- でも、言語習得には時間もかかるし、教室だけでなく、家庭での自習は大前提
- また、言語使用場面の少ない海外では非常に困難
- だったら、日本語教育は日本語習得の他に、もっといろいろな目的を持ったほうがいいと思う
- 広い文脈に日本語教育を位置づけて考えてみよう

# 学習者にとって学校は生活の一部



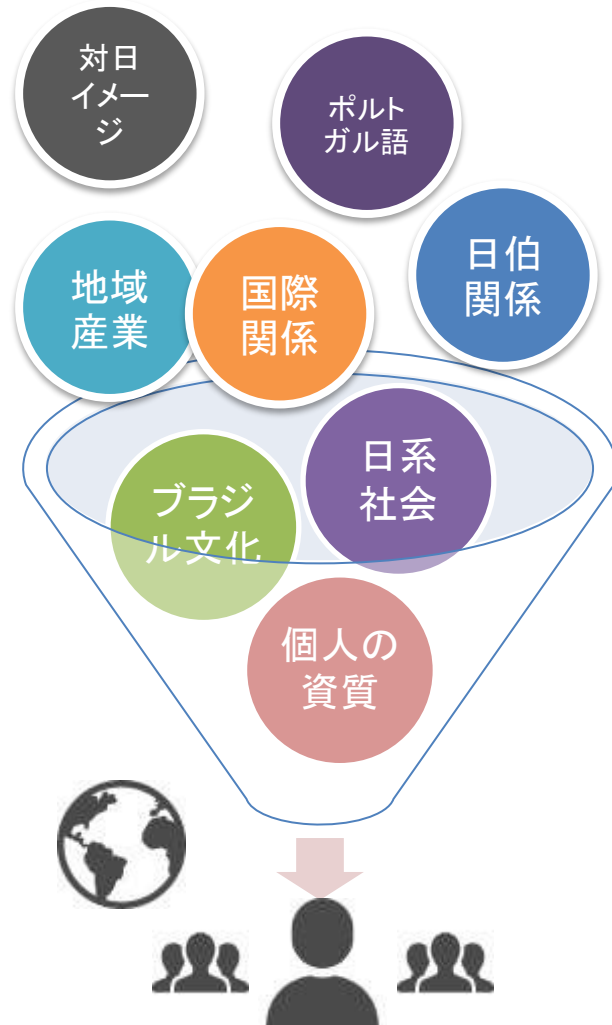
- 学校、日本語を中心から外してみる
- 学習者は社会の関係の中にいる
- 家庭、学校、職場、街・地域で、家族、友達、先生、同僚、地域の人と関係を持っている
- 一緒に、働き、勉強し、生活している
- ことばが人と人をつなげているのなら、言語教育は人と社会をつくる行為と考えるはどうだろうか

# 人が変わる/社会が変わる



- 人と社会はお互いに影響を及ぼしている
- 人が変われば社会も変わる、その逆もありうる
- 「社会」というと大きいけど、家庭、学校、職場、街・地域で具体的に考えてみよう
- ただ、この関係に日本語はどう入るの？
- これがシンポジウムのテーマになります

# 南米で日本/日本語?



どんな人/社会を目指すか?

- では、南米はどんな環境だろう
- 日系社会のある南米には、他国・地域にない言語・文化資源がある
- さらに南米に特有な資源もある
- 利用可能なすべての資源を生かした人材育成を考えたい
- そこにはどんな人が生まれ、その結果どんな社会になるだろう
- 将来的なビジョンからことばの教育を導きたい

# 例えば、こんな人たちが増えたら、 社会はどうなるだろう？

## 言語・文化通訳



複数の言葉や文化の違いを知り、  
それぞれの言葉、文化に翻訳できます。  
言語・文化の違いによる誤解を防ぎ、  
家庭、学校、職場、街・地域に、  
共に生きる空間を作り出します。

## 複言語・複文化キッズ



自文化と他文化の言語や文化を同時に持ちます。  
それぞれの言語・文化集団を行き来し、いいところを取り入れ、  
自分自身のアイデンティティを形成していきます。  
また、複数の文化を合わせて、新しい文化をすることもあります。  
「言語・文化通訳」の卵でもあります。

## グローバル人材



専門知識、複数の言語能力、異なる文化・習慣に対応できる  
文化能力を持っています。  
様々な人々のニーズが理解でき、いろいろな快適さ、便利さ、  
カッコよさを開発し、イノベーションを起こします。

## 学び続ける人



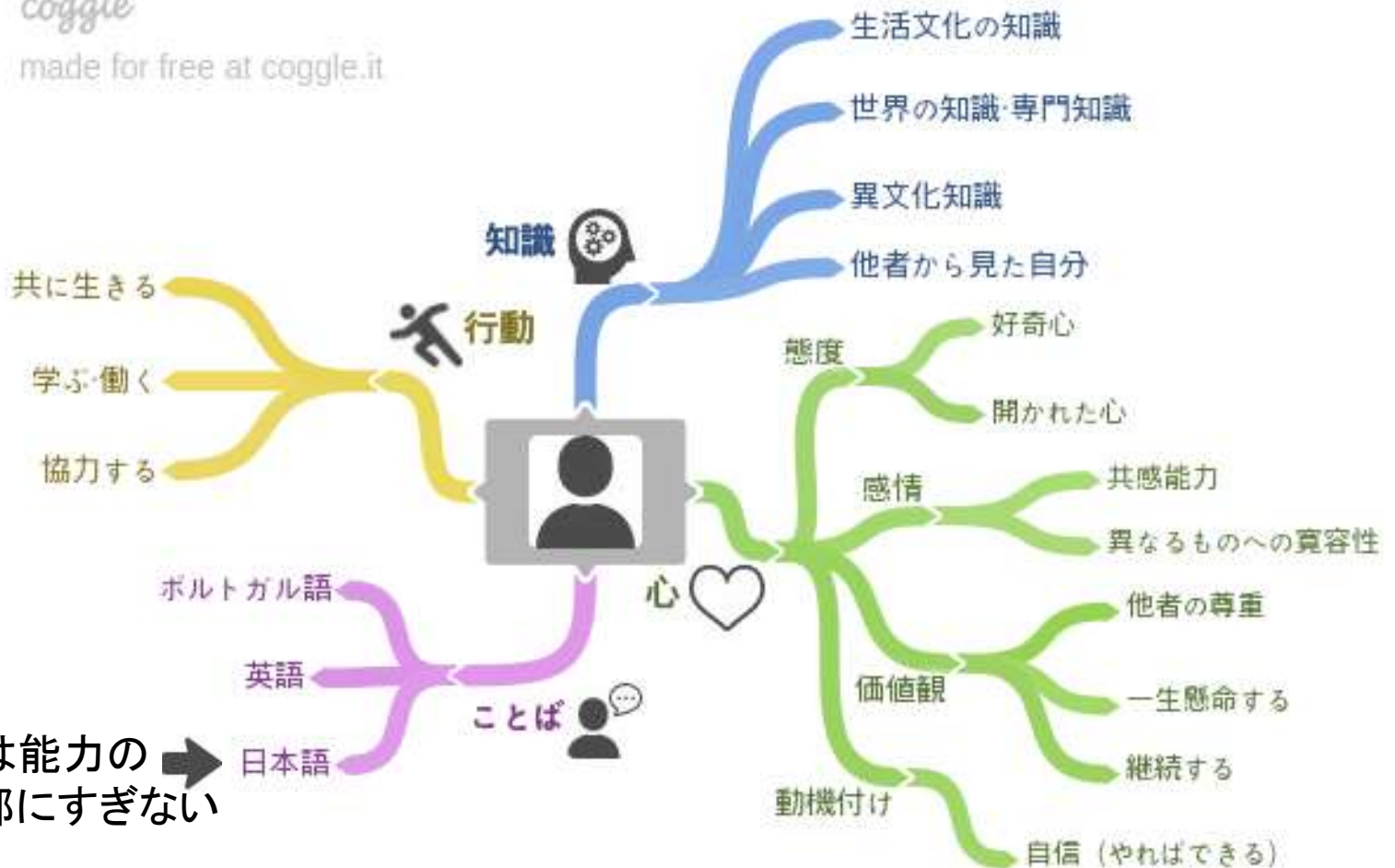
生まれてから年をとっても、楽しみのために学び続けます。  
知識と自分の経験をあわせ、世界を柔軟に見ることができます。  
学び続ける人は、学ぶことの楽しさを皆に伝え、  
社会に複眼的視点、寛容さといった態度を組み込みます。

これらの人々が媒体となって、社会を少しずつ変えていく  
日本語教育はこれらの人のどんな能力を育成することができるだろうか？

# 人はことばだけでは人と関係を作れない ことばの他にたくさんの能力が必要となる

coggle

made for free at coggle.it

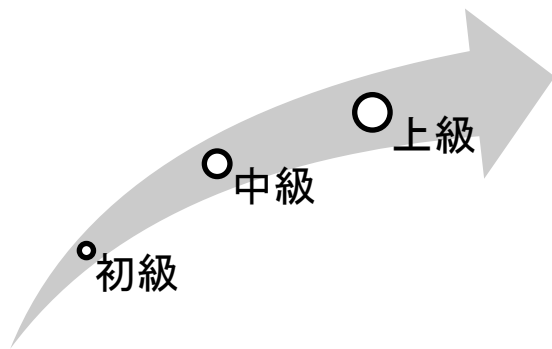


「日本語」は能力のほんの一部にすぎない

日本語教育を通して、**知識**、**心**、**行動**の各能力を伸ばすこともできる  
**ことば**を教えることだけが日本語教育ではない



# いろいろな日本語教育のモデルを考えよう



## 言語教育の一般的モデル(信念?)

- ① 学習の結果、日本語が使えるようになる
- ② 学習の結果、レベルが上がる
- ③ 継続して学習が必要
- ④ 四技能がバランスよくできる

- 一般的に日本語学校は以上のような目標・モデルがある
- もちろん、このような学校も必要だ
- でも、ことば以外の能力を育成するには、このモデルを少し見直す必要もある
- ↓は、これらを元にした、日本語教育モデルのバリエーションを考えてみた
- こんなふうにかんがえてみてもいいのでは

## 日本語教育モデルのバリエーション(考え方)

### ① 目標は日本語能力だけでない

- 日本の知識がつく
- がんばりぬく力がつく
- 自律性が高まる
- 日本の習慣がわかる
- 算数ができるようになる
- 太鼓がたたけるようになる
- 楽しく時間が過ごせる
- コミュニティが活性化する
- 友達ができる

### ② 必要なレベルはその人次第

- 必要なレベルまで学習する
- 必要レベルまでいけばやめてもいい(時間は大切な資源)
- 必要が出たらまた始める
- 進級しなくてもいい
- ずっと初級でもいい
- 初級より上級がえらいわけではない

### ③ 学習は必要な時間だけ

- 必要な時間だけ継続する
- 学習は「やめる」のではなく、「中断」
- 必要になったら続けられる体制を作る
- 一日で終わるコースもあっていい
- 一生涯続くコースもあっていい
- 「積み上げ」なくてもいい

### ④ 使わない技能は不要

- 必要な技能も目的次第
- バランスが悪いほうが自然
- よって技能を特化したコースも必要
- 文字は本当に必要か
- 逆に文字だけ書きたい人もいる(書道コースの人など)

# こんなアイデアをシンポジウムで得たい シンポジウムの目標は以下の二つ

- 日本、日本語に関わる未来の人物像、社会像（日本、ブラジル、国際）を**複数**思い描く（ビジョン）。
  - 理想、アイデアでもOK
- 南米で利用可能な言語・文化資源を探りながら、その育成方法を考える。
  - 日本語教育の**様々な**方法
  - ネットワーキング



# 会場でお待ちしています。

- 最後まで、読んでいただいております。
- 面白そうだな、と思ったら、ぜひ、会場まで来てください。
- 参加は**無料**です。(しかも茶菓子つき!!)
- 皆さんのアイデアが必要です。
- 参加申し込みは↓から。
- <https://goo.gl/bHSVAO>

